

きよまさ 清政

もてぎ
茂木ちあき作

たかはし
高橋ユミ絵

しん に ほんしゅつばんしゃ
新日本出版社

江戸の日本橋に大店を構える「白子屋」。錦絵や絵草子、読本などをあつかう地本問屋だ。ここの跡取り息子である政之介は、とりわけ絵がうまい。店の品物でも気になるものは錦絵だ。なかでも鳥居清長の美人画には目を奪われる。美しい線を見れば、ため息が漏れ、絵の手ほどきを受けてみたいと切に思う。ところがある日、政之介は、この鳥居清長と驚くべき関係にあることを知らされる。厳しい父、跡取りとしての立場、おユキへの思い…。ゆれ動きながら、絵師の道を歩もうとする少年の物語。

